アクティブシニアの活躍が施設を救う

～新たな地域における介護人材の開拓へ～

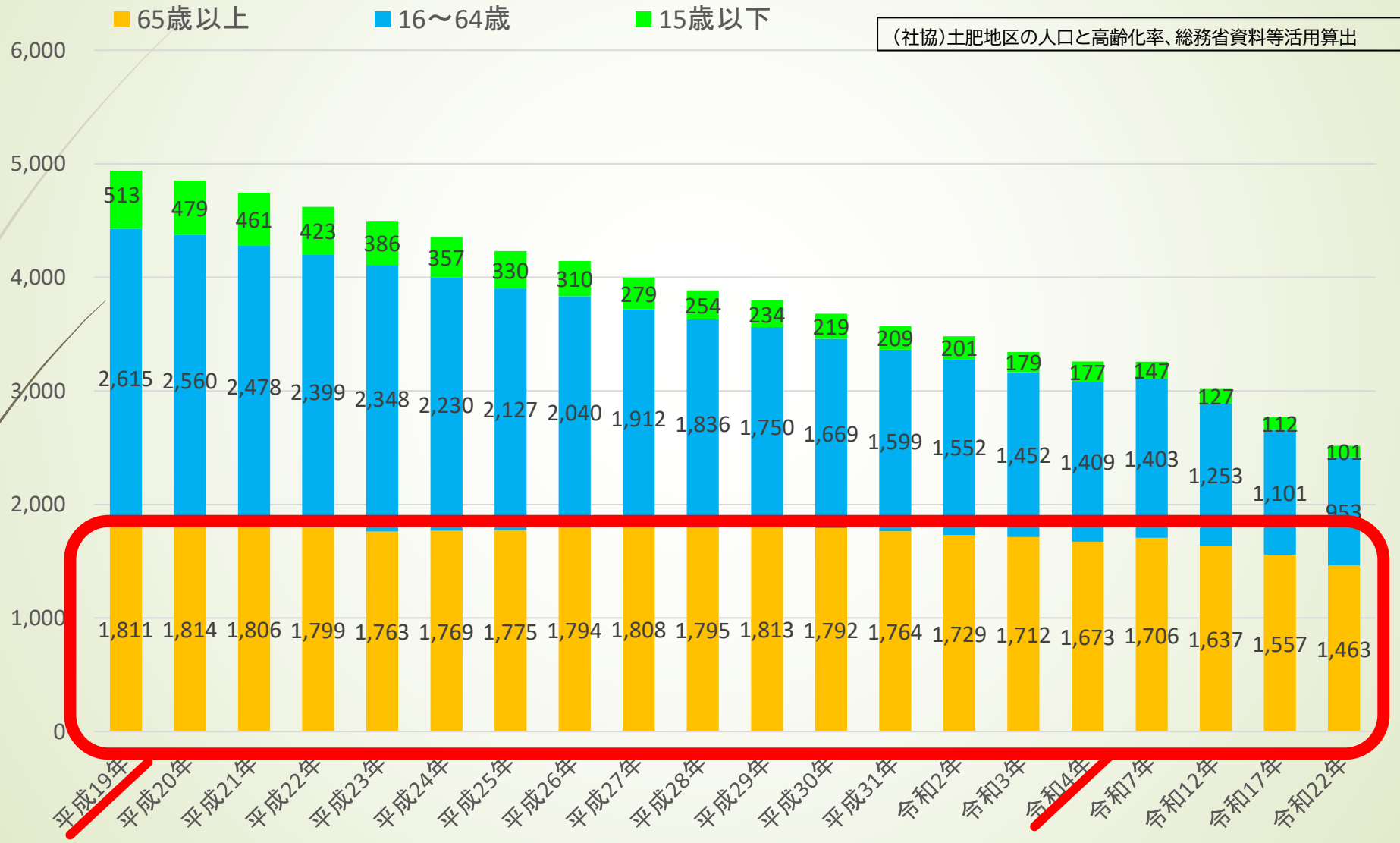
社会福祉法人　信愛会　特別養護老人ホーム
土肥ホーム　新谷　裕生

①慢性的な介護人材不足の地域

- 経済産業省の推計
  - ・２０３５年介護人材の需要は２９５万人
  - ・供給は２２７万　６８万人が不足の見込み
- 過疎地である為、募集をかけても人が集まらない
- 沿岸部の為、近隣地域からでは、峠越えとなる
- 通勤に時間がかかる
- 少子高齢化が著しい地域
- 次世代を担う働き手が不足

２０３５年問題が既に到来し、慢性的な人材不足

②土肥地区の現状について



（社協）土肥地区の人口と高齢化率、総務省資料等活用算出

③採用に向けての葛藤

- 専門職でない職員に仕事を任せることができるのか
- 安全・安心なサービス提供に影響がでるのではないか
- リネン交換・配膳作業であっても、専門職の視点で物事をすすめる事が望ましいとの思い

平成30年１月　新たな取組「介護サポーター制度」を開始

④業務内容について

- 介護職員が担う業務を専門性の有無で振り分け
- 直接的ケアとその他の周辺業務に分類

↓

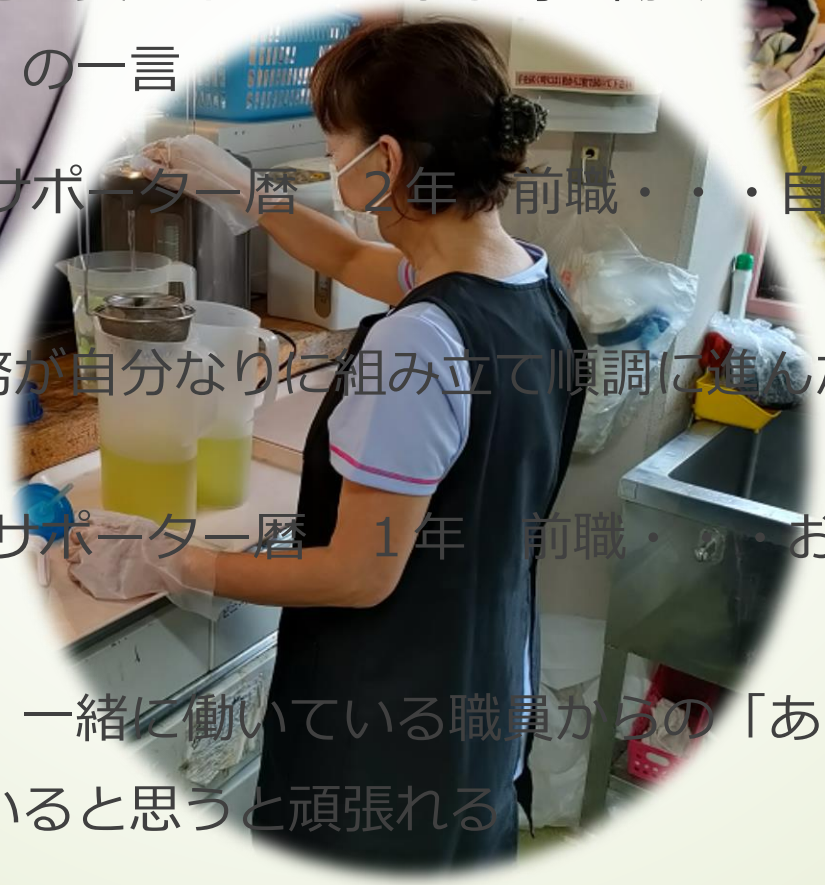
介護の周辺業務を担当

主な業務内容・・・

・食事の際の水分の用意　配膳・下膳　食器洗い　入浴
　衣類の準備　衣類の配布　リネン交換

・職員から依頼された業務

⑤介護サポーターの紹介



- Aさん　７４歳　サポーター暦　４年　前職・・・農家
- やりがいは・・・
  - ・利用者の居心地の良いホームになる為に働くこと
  - 「ありがとう」の一言
- Bさん　６８歳　サポーター暦　２年　前職・・・自営業（米の販売）
- やりがいは・・・
  - ・与えられた業務が自分なりに組み立て順調に進んだときの達成感
- Cさん　６８歳　サポーター暦　１年　前職・・・お土産店勤務
- やりがいは・・・
  - ・利用者の笑顔。一緒に働いている職員からの「ありがとう」の言葉
  - ・やくに立てていると思うと頑張れる

⑥新制度開始による変化（メリット）

- メリット・・・介護職員の場合
  - ・介護に専念する事が出来る
  - ・気持ちの余裕
  - ・利用者と関わる時間増
  - ・地域に馴染んだシニア層の為、地縁を生かした関わりのヒントがもらえる

↓

専門性に特化した質の高い介護技術の提供

⑥新制度開始による変化（メリット）

- メリット・・・利用者の場合
  - ・地域の顔見知りと再会し、話ができる
  - ・年が近いため、相談相手としての存在（同世代）
  - ・気持ちに寄り添ってもらえる存在

↓

住み慣れた地域で生活する安心感

⑥新制度開始による変化（メリット）

- メリット・・・介護サポーターの場合
  - ・まだまだ働ける・働きたいとの意欲増
  - ・感謝の言葉にやりがい
  - ・5年10年先まで働く為と健康意識の向上
  - ・福利厚生も他の職員と同様の待遇

↓

日常生活の充実

⑥新制度開始による変化（メリット）

- メリット・・・地域における効果・影響
  - ・社会参加の機会増加
  - ・定年退職後の喪失感・疎外感の解消
  - ・新たなコミュニティの開拓
  - ・健康寿命の増進

↓

元気に働ける地域の実現

⑥新制度開始による変化（デメリット）

- 唯一のデメリット
  - ・シニア層の高齢化
  - ・健康管理の問題
  - ・業務中の転倒事故等による怪我の問題

↓

安心して働ける為の環境整備

⑦高齢者の活躍の場として

- 介護職として長年活躍してきたが、高齢となった事で、サポーターに転向
  →専門知識をいかした関わりを実践
- 運転が出来ない職員の送迎
- 健康面に配慮しつつ、専門職の視点を生かせる業務へ転向
  →介護サポーターより、専門性の高い業務の実施

↓

「**生涯、土肥ホーム職員**」が合言葉

ご清聴ありがとうございました

おわり